

1. とうもろこしのシカゴ定期は、6月には330セント／ブッシェル前後で推移していたが、米国産地で生育に適した天候になったことから、7月には310セント／ブッシェル前後まで下落した。その後、米国産地の高温乾燥などによる作柄悪化懸念や中国向け輸出成約の大幅な増加に加え、9月30日に米国農務省が発表した四半期在庫が市場予想を下回ったことなどにより急騰し、現在は410セント／ブッシェル前後となっている。
2. 大豆粕のシカゴ定期は、6月には320ドル／トン前後で推移していたが、米国産地の高温乾燥による大豆の生育悪化懸念や中国向け大豆の輸出成約の増加に加え、南米産地での高温乾燥による南米産大豆の生育悪化懸念により急騰し、現在は430ドル／トン前後となっている。
3. 米国ガルフ・日本間のパナマックス型海上運賃は、5月には30ドル／トン台で推移していたが、中国向け穀物の輸送需要が増加したことや、鉄鉱石の輸送需要が増加したことから8月には50ドル／トン台まで上昇した。その後、鉄鉱石の輸送需要が一段落したことから、現在は45ドル／トン前後となっている。
4. 外国為替は、6月には108円前後で推移していたが、新型コロナウイルスの影響により、世界的な景気後退が続いていることや、米国の低金利政策が長期化するとの見方から円高がすすみ、現在は104円前後となっている。

